

## 第 10 回自治推進委員会のまとめ（案）

平成 23 年 11 月 15 日開催

1. 参画と協働の検証（C カテゴリー）について 印は検証シートによる意見
- ・各委員が提出した C カテゴリーの検証シートの内容は、意見等とあわせて次回までに事務局でまとめる。（4 段階の検証結果については平均値を算出する）

危機管理防災室「防災に関する啓発経費」の検証

（検証結果平均；参画 B、協働 B）

- ・住民の意識を高める必要がある。【岩下委員】
  - ・結成した自主防災クラブが、その後きちんと活動できるよう仕向ける必要がある。【岩下委員】
  - ・まちづくりにおける防災、自主防災クラブ事業の位置付け、ビジョンを明確にするべき。【西村委員】
  - ・自治会長に対する周知の繰り返しなど、地域のつながり・連携が必要ではないか。【吉田委員】
  - ・介護・介助が必要な人を助けに行くことも自主防災クラブの役割ではないか。【吉田委員】
  - ・住民に対して、どのように参加を呼びかけるか考える必要がある。【平橋委員】
  - ・行政から協力を呼びかける垂直的協働から抜け出せていない。地域のプロファイリングを市民と共有し、水平的協働にしていくべきである。【荒木副委員長】
- 画一的な情報提供である。市民の特性に合わせたアプローチが必要。【上野委員長】
- 自主防災クラブの提出書類様式が細かく、ペーパーワークができていない地域もあるのではないか。【上野委員長】
- 情報発信をされているが、周知されているかは疑問である。情報収集が少ないので、アンケートなどをしてみてはどうか。【岩下委員】
- 防災の必要性を感じないと参加者が増えないのではないか。【長塩委員】
- 市民からのアイデアを取り込むシステムが弱いのではないか。【中島久美子委員】
- 市民の立場と対等でないように見える。どのような防災状況を目的としているのか分からない。【中島久美子委員】
- 日頃からの近所づきあいが大前提。校区の人間関係をつくることで協働の精神をつくっていくことが大切ではないか。【吉田委員】
- 「地域により温度差がある」のを、広報や啓発だけで参画を推進しようとしても十分ではないのではないか。関心の無い地域への働きかけが必要と思われる。【松崎委員】

廃棄物計画課「プラスチック製容器包装リサイクル推進経費」の検証  
(検証結果平均；参画 A、協働 B)

- ・ゴミ出しルールの指導を繰り返し地域に対して行ってほしい。【吉田委員】
  - ・生活の一部に組み込めるように、小学校等の授業で啓発をするべき。【長塩委員】
  - ・目標・成果の共有を行い、市民の参画・協働の意識を高めてほしい。【松崎委員】
  - ・ダンボールコンポストや拠点回収の周知をするべき。【平橋委員】
  - ・基本計画の総括、施策の評価を行うべき。【西村委員】
  - ・ゴミ出しルールを教え込むだけではなく、いろんなアイデアを出し、今後の協働に工夫をするべき。【上野委員長】
  - ・消費者、生産者、行政が話し合う場を設けるべき。【荒木副委員長】
  - ・過剰包装に対する取り組みも必要なのではないかと。【荒木副委員長】
- 今後、分別・回収の精度をあげるため、現状を市民にフィードバックし、あるべき姿を目指していく必要がある。【岩下委員】
- 生ゴミ処理や調理方法などの工夫情報を知らせていくことも大切ではないか。【中島久美子委員】
- 地域説明会の意見がよく反映されている。【松崎委員】

経営企画課「水資源確保経費」の検証  
(検証結果平均；参画 B、協働 B)

- ・市民がかん養事業を負担（支援）していることを PR するべき。【上野委員長】
  - ・地下水水位について、もっと危機感を持って啓発していくべき。【長塩委員】
  - ・審議会要綱に、会議の公開、会議録の公表を明記するべき。【西村委員】
  - ・菊陽町・大津町等の企業、農業者と協力していく必要がある。【上野委員長・荒木副委員長】
  - ・市民に見えない水保全行政を打破し、一般市民との協働の手立てを考えるべき。【荒木副委員長】
- 先進的な熊本の地下水保全の取組をうまく発信し、市民の誇りにまで高める手法として参画・協働が使えると思われる。【上野委員長】
- 全市民的に市民生活の維持保全の絶対不可欠の価値を守っていく必要性を常に意見交換していくべきであり、そういった場を作っていくべき。【荒木副委員長】
- 審議会 7 名だけではなく、幅広い市民との参画が必要ではないか。【岩下委員】
- どのような協働を市民にしてほしいのか、必要性を明確にしてほしい。【吉田委員】

## 2. 今後の進め方について

- ・資料 7「報告書の項目（案）」をたたき台として、これまでの委員会で出された意見・提案、検証シートの意見・提案を整理し、情報共有への意見等も含め 1 月に協議する。【上野委員長】

・報告書の項目（案）について、参画の中に情報共有を位置づけるのではなく、大項目として、情報共有を参画・協働と並べるべき。【西村委員】

「自己評価シート」は「検証シート」の内容を取り入れたものに変える必要がある。そのために、市民協働推進課が主導的役割を果たすべき。【西村委員】

参画と参加の使用上の混同が見られ、区別ができていない。【西村委員】

### 【参考】

#### 検証結果A～Dの集計

事業		A	B	C	D	平均点	平均
危機管理防災室「防災に関する啓発経費」	参画	0人	6人	3人	0人	3.33	B
	協働	0人	7人	2人	0人	3.55	B
廃棄物計画課「プラスチック製容器包装リサイクル推進経費」	参画	5人	4人	0人	0人	5.11	A
	協働	3人	6人	0人	0人	4.66	B
経営企画課「水資源確保経費」	参画	1人	5人	2人	0人	3.75	B
	協働	0人	7人	2人	0人	3.55	B

( A = 6点、B = 4点、C = 2点、D = 0点として集計し、平均値は5点以上をA、3点以上～5点未満をB、1点以上～3点未満をC、1点未満をDとする )